

## 第38回シンポジウムのお知らせ

第38回シンポジウム実行委員長

岡山理科大学 森 裕一

日程: 2024年10月24日(木)~26日(土)

開催形式: ハイブリッド

URL: <https://jscs.jp/conf/sympo38/>

岡山での開催は17年ぶり、5回目となります。今回は、総検造りの能舞台を有した「能楽堂ホール tenjin9」をメインに、同「地下会議室」とお隣の「岡山市立オリエント美術館の「地下講堂」の3か所を講演会場とし、懇親会を岡山城で行います。



特別講演では、観世流能楽師の林宗一郎氏を招き、能の説明や能舞の披露をしていただき、懇親会では、岡山城全館の展示(歴史学者・磯田道史氏監修)や天守閣を堪能いただけます。この岡山ベースの企画は、おかやま観光コンベンション協会様からの提案もあり、これなら日本計算機統計学会だ、ということで、本シンポジウムが実現しました。

研究面では、大阪大学サイバーメディアセンターの村田忠彦氏に「統計情報に基づく合成人口データとシミュレーション」と題したチュートリアルセミナーをしていただきます。もう1つの特別講演は、恐竜学博物館を持ち、恐竜学研究で日本の最先端をいく岡山理科大学の實吉玄貴氏と千葉謙太郎氏より、「恐竜学の最前線」と題して、モンゴルのゴビ砂漠での発掘を中心とした恐竜研究について講演をいただきます。企画セッションでは、データサイエンス教育、スポーツアナリティクス、産学連携のデータサイエンス活動、産学官の取り組みといったみなさんの関心の高いテーマを設定しました。そして、秋のシンポジウムの特徴である学生セッションも約40件と多くの発表が予定され、企業の方々や大学教員との交流により若い人たちの成長が期待されます。また、今回も多くの企業様に協賛をいただいています。ブースやデモセ

ッション等で最新の情報を収集ください。

2つの特別講演、4つの企画セッション、学生セッションを含む一般講演約70件と、全セッション枠が埋まる盛大な会となりました。このニューズレターがお手元に届いたときには、会期も間近だと思います。参加を予定されている方をはじめ、参加登録がまだの方はすぐにお申し込みいただき、岡山の文化に触れながら、学生セッションでのアドバイス、企画セッションでのご議論、各種情報収集、そして何よりも新・旧の交流を深めるための場として、どうぞ本シンポジウムをご活用ください。たくさんの来岡をお待ちしています。

問い合わせ先:

日本計算機統計学会第38回シンポジウム実行委員会

E-Mail: [sympo38@jscs.jp](mailto:sympo38@jscs.jp)

## 第38回大会の報告

第38回大会実行委員長

グラクソ・スミスクライン株式会社 永久保 太士

日本計算機統計学会第38回大会は、2024年5月24日(金)から25日(土)にかけて、山形県山形市のやまぎん県民ホールで開催されました。大会前日の5月23日(木)には、チュートリアル「臨床薬理と統計の専門家の架け橋」が開催されました。このチュートリアルは、臨床薬理学と統計学の分野にまたがる重要なトピックを取り上げ、医薬品開発の過程における臨床薬理と統計の協働について深く掘り下げました。本大会の参加者数は149名で、特別講演2題、特別セッション5題、一般講演17題、学生研究セッション10題、スタディグループセッション7題、ソフトウェア・デモセッション1題の合計42の発表が行われました。

特別講演1では、株式会社やまがたさくらんぼファームの矢萩美智さんが登壇されました。矢萩さんは、著書『さくらんぼ社長の経営革命—入園者ゼロになった観光農園の売上を過去最高にできたしくみ』に基づき、地域農業の発展に関する講演を行いました。特に、観光農園の経営改革を通じてどのように売上が過去最高に導いたかについて、経営戦略の実践方法やその成功事例が紹介され、参加者に強い印象を

与えました。

特別講演 2 では、東京医科歯科大学の平川晃弘先生が「アルツハイマー病の長期的認知機能変化の予測と臨床試験への応用」というテーマで講演されました。平川先生は、アルツハイマー病に関する長期的な認知機能の変化を予測するための統計モデルについて解説し、そのモデルが臨床試験にどのように応用されるかを具体的に示しました。

懇親会は、山形市内の「味の店 スズラン」で盛大に開催され、美味しい食事と地元の酒を堪能しました。参加者同士で活発な意見交換が行われ、和やかな雰囲気の中で多くの有益な対話が生まれました。

本大会の成功は、多くの関係者の協力なしには成し得なかったことを強調したいと思います。座長、ご講演をお引き受けいただいた方々、ご発表をいただいた方々、ご協賛をいただいた企業の方々、そして、ご参加いただいた皆様に心より感謝を申し上げます。また、大会運営にご協力いただいた山形コンベンションビューローの皆様や、実行委員の皆様にも深く感謝いたします。今後の大会・シンポジウムでも、さらに多くの参加者とともに、充実した議論と交流の場が提供されることを期待しております。

## 学会賞受賞者より

学会賞を受賞された方よりコメントを頂きましたので、ご紹介いたします。

### 「学会賞」を受賞して

中央大学 鎌倉 稔成

学会賞をいただき、日本計算機統計学会の会長をはじめとする多くの方に感謝しております。学会には微力な貢献しかできなかったかわり、このような賞をいただけたことについては、ありがたいと思うと同時に自分自身に対して、もっと貢献すべきことがあったのではという自責の念も残っております。大学でも退職、名誉教授となりましたが、学会賞の受賞により引退勧告が来たのではないかと複雑な気持ちもあります。

私が、統計関連の学会に初めて参加したのは、日本品質管理学会でした。東京地域では、品質管理学会+数学会+応用統計学会と組み合わせで学会活動をしていた研究者が多かったかと思います。私も統計数理研究所(統数研)に入るまでは、そのような形で学会参加をしていました。もちろん、今のように、研究費も潤沢でなく、学生の研究発表など言語道断というような雰囲気もあり、東京都内で開かれる学会に発

表もなく、こっそりと聞いていたような覚えもあります。統数研に入所してからは、統計学会への参加がほぼ義務的になりました。統計学会は広尾の統数研内部に事務局があり、統数研の若手研究者が庶務を引き受けるということが通例でした。

さて、どのような経緯で計算機統計学会に入るようになったのかといえば、統数研の先輩の馬場先生の誘いだったかと思います。馬場先生は、計算機統計学会の創始者の一人でもある脇本先生が研究されていた、「実際に即した統計解析に必要な計算法」、なかでも星座グラフの研究をしていて、脇本先生の研究の継承であったかと思っています。星座グラフとか顔グラフは手書きでは難しく、PC のグラフィクスをハンドリングできる計算機能力に長けていた研究者の独断場でした。当時は、仮説検定が主流であり、グラフィカルに検定するという難問をかかえていたかと思っています。後に、スタンフォード大学で、統計学科の playfair をいう Unix システムで R を使い出したころ、端末室で隣に座った顔グラフで有名な Chernoff 先生と話をしたことも思い出しました。Chernoff 先生は face chart を作りましたが、もちろん、Chernoff bound, Chernoff distribution 等の分布論の研究者としても有名です。Summer quarter に他の大学から(当時は Harvard 大学の教授)がふらっとやってきて端末室で私のような visiting researcher となんとなく話す。有名な教授であることも知らずに、playfair のシステムを私が説明する。名前を聞いて初めて有名教授であることを知ったわけです。非常に有名な教授に会えてうれしいと言うと、“My face?” と言ってジョークで返してくれました。私はこんな環境を実にうらやましく思いました。

どんな理論的な研究者も計算機を使うわけです。脇本先生を追いかけるわけではないのですが、少し懂れたところもありました。脇本先生は統数研に 5 年おられて、岡山に戻られました。私は 4 年半しか統数研にいなかったので、まったく脇本先生には追いつけるはずありません。林先生の「計算機統計における脇本和昌さんのこと」(林, 1994)によれば、昭和のはじめは電子計算機の黎明期であり、統計における計算の機械化は重要な課題だったわけです。この研究を支えてきた脇本先生は、今で言えばすでに現在の AI を見据えた仕事をしていたわけです。

入会してしばらくしたころ、汎用機から NEC の PC98 や Apple の Macintosh 等のパーソナルコンピュータの普及に伴い、データ分析の秀逸な統計パッケージソフトがかなり多く開発されました。これについては、鎌倉・椿・中野 (1992) が品質管理学会誌「品質」の解説に寄稿しました。懐かしい話で

す。現在はRやPythonに一本化されてきた感があります。Rを貧者のSと形容した方もいますが、いまや統計研究者必須の道具となっています。

話は代わりますが、多くの学会が若手の研究者を学会組織にどう組み入れるかについて、苦勞しています。私は計算機統計学会については実に見事に若手研究者を取り込んできたと思っています。学生の研究発表の場を設け、学生研究発表賞を授与し、研究者への道をプロモートしています。企画側は大変ですが、見事に成功していると評価できると思います。また、産と学の融合のために会長職を産と学を交替で出しているというのも大きな特徴の1つです。また、様々な地方都市で学会を開催し、その地元の特徴的な場所で懇親会を開催しています。学生を大勢連れて行く教員の研究費が心配ですが、この研究費獲得のために、学外研究費を取りにいくと、研究の活性化が進み、正のフィードバックがかかり、さらに若手の支援が進む結果となっています。

これからはAI/データサイエンスというデータ分析の結果で評価される時代になってきています。伝統的な統計学の研究者が、どのように対処していくのが今後の課題でもあります。理論は理論という道も必要ですが、それをどのように現実の問題に適応し、橋渡しをする研究者も学会として育てていかなければならないと思っています。あまり出しゃばらずに協力できるところは協力するつもりです。今後の学会の発展を祈念して筆を置きたいと思います。

#### 参考文献

- [1] 鎌倉稔成・椿広計・中野純司. (1992). 海外の統計ソフトウェアの現状. 品質, 22(4), 96-102.
- [2] 林知己夫. (1994). 脇本和昌さんのこと. 計算機統計学, 7(1), 15-16.

#### 「論文賞」を受賞して

中央大学 酒折 文武

思いがけず日本計算機統計学会論文賞という身に余る賞を戴きました。大変光栄に思います。推薦してくださった先生、選考委員や学会理事の先生方、関連論文の査読に関わっていただいた皆様をはじめ、これまで関係してくださった全ての方々に御礼申し上げます。

これまでの研究生活において、理論的な興味先行で実用性を欠く研究への違和感を感じていました。また、応用研究においても、既存手法を用いて新たなことが明らかになることは嬉しくも、物足りなさを感じていました。もちろん、これら

の研究を批判しているのではなく、自分としてしっくりこなかったという意味です。自分の力不足ゆえに、理論と応用の両方で充足感のある研究がなかなか実現できず、また、大学院生の指導以外で自身の理論研究を進める時間の確保にも苦慮してきました。

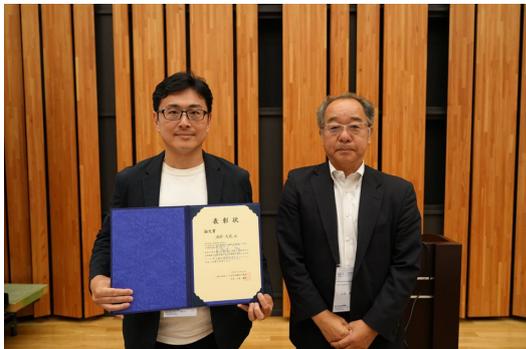
そんな中、和文誌「計算機統計学」でスポーツ統計の特集を組んでいただける機会に恵まれ、オーガナイザーの一人として関わることになりました。10年以上続けていた分野でもあり、自身としてもここに貢献できる論文を発表したいの思いから、リオオリンピックで卓球日本代表を支えたアナリスト・池袋晴彦さんとの共同研究を形にしようと思い立ちました。興味をもたれない方も多いと思いますが、以下少し論文に関することを述べさせていただきます。

卓球における1回のラリーでの打球回数はサーブ側の選手の特徴を表します。「カットマンは1回のラリーが長い」というのは私のような“温泉ピンポン”レベルの間人でも想像がつくのではないかと思います。この打球回数を表す確率分布について検討を行なったのが今回の対象論文(34巻2号)です。幾何分布を当てはめている文献ぐらいいか存在しません。そもそも分布が単調減少の形をしていない(ゼロ過少)。サーバーとレシーバーとでどう考えても返球率が違う。こうしたことを表現する3パラメータモデルと4パラメータモデルを提案し、それらについての数理的性質、最尤推定量、パラメータの近似信頼区間、AICなどを導出しました。そして、卓球の実データへの当てはまりがとても良いことがわかりました。近似信頼区間の被覆確率がある程度担保できるサンプルサイズも経験的に与えました。推定したパラメータは比較的解釈しやすく、卓球の専門家である池袋さんも納得できる分析結果であるとのことでした。論文を早めに採択いただけたため、当初目指していた特集内の論文ではなく、通常原著論文として扱っていただくことになりました。対象論文はこのようにして日の目を見ることになりました。少しではありますが理論的な貢献もしつつ実用性もあるということで、自分としてはある程度納得のいく論文になったと思っています。今は、この確率分布のさらなる発展と、分布値クラスタリングなどへの展開なども考えています。

本研究内容に関連して、本学会のシンポジウム他、何回かの研究発表を行いました。休憩時間や懇親会のときに、様々な方から「面白かった」と声をかけていただきました。中には学生さんもいました。遠隔開催では味わえない感覚。研究者としての醍醐味を改めて感じさせるものでした。

知命を目前にし、残りの研究者生活で自分に何ができるだ

ろうかと最近では考えるようになりました。これまで日本計算機統計学会には何度も励まされてまいりました(2005 奨励賞, 2010 ソフトウェア賞, 2017 貢献賞, 2023 論文賞)。これからは少しでも学会に恩返しができるよう, 研究に励んでいく所存です。今後ともご指導, ご鞭撻のほど, よろしく願い申し上げます。



### 「奨励賞」を受賞して

テルモ株式会社 池谷 利治

この度は, 奨励賞という名誉ある賞を賜り, 大変光栄に存じます。受賞にあたり, 選考に携わっていただきました委員の先生方をはじめ, 論文の編集に携わっていただきました先生方, ならびに学会員の皆様にご心より御礼申し上げます。また, このような賞を受賞することができましたのも, 共著者であり学生時代より大変お世話になっております東海大学の山本義郎教授, 道家暎幸名誉教授からの熱心なご指導のおかげです。この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

受賞対象となりました論文で, 2 グループ間において各調査項目における母平均の差の和の一致を帰無仮説として逐次的に検定を行う多重比較法を提案いたしました。各調査項目のデータを逐次的に収集し, 1 つの調査項目のデータが揃う都度, 2 グループ間の母平均の差の検定を行い, 途中段階で母平均の差を検出することを目的としています。この提案手法は, 逐次的に得られるデータに対して複数回の母平均の差の検定を行う群逐次検定の理論を応用することで, 逐次的な多重比較が可能となりました。提案手法における有意水準を満たす棄却限界値の計算では, 多重数値積分を繰り返すため非常に多くの時間を要し, 提案手法における棄却限界値, 検出力, 標本サイズなどの特徴を把握することに大変苦労しましたが, 共著者の先生方からのアドバイスやご指導によりこの度の論文として形にすることができ, またこのような評価いただきましたことを感謝しております。

今回の受賞を励みに, 日本計算機統計学会の発展に少しでも貢献できるよう今後も日々精進していく所存でございます。

すので, 今後ともご指導ご鞭撻のほど, よろしく願い申し上げます。この度は誠にありがとうございました。

### 「貢献賞」を受賞して

札幌学院大学 中村 永友

このたびは「貢献賞」という過分な賞をいただき, 誠にありがとうございます。直近では第37回大会, それ以前に第23回シンポジウムの実行委員長として責任を持って務めることができたのは, 関係者の方々のご支援とご協力があったからこそです。このような機会を与えてくださった学会関係者の皆様, そして共に活動を進めてきた委員会のメンバーには心から感謝申し上げます。特に, 大会やシンポジウムは多くの方々の知識やアイデアにより執り行うことができ, 私一人の力では到底成し得なかったものでした。今回の賞は学会全体の協力の結果として受け取らせていただき, 今後も学会の発展に貢献できるよう, 引き続き力を尽くして参りたいと思います。重ねて感謝申し上げますとともに, 今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

### 「貢献賞」を受賞して

大阪医科薬科大学 伊藤 ゆり

この度は日本計算機統計学会貢献賞という名誉ある賞を賜り, 大変光栄に思います。受賞にあたり, ご推薦, ご選出していただいた委員の先生方をはじめ, 学会員の皆様にご心より御礼申し上げます。今回の受賞に関しては, 宮崎において開催されました第37回シンポジウムの実行委員長を務めさせていただきましたことと, 過去二回の日本計算機統計学会産官学連携フォーラムに関して, 運営のお手伝いをさせていただいた貢献にたいするものと伺っております。入会歴の浅い私のような若輩の会員ではありますが, 第37回シンポジウムおよび産官学連携委員会の皆様のご指導・ご支援により, 三つの大きなイベントを成功裏に催すことができました。改めて, 感謝申し上げます。本学会における私の役割は, 医学, 疫学などの他領域の研究者と本学会とをつなぐ架け橋になることだと思っています。今後も, 時期を得た様々なテーマで会員の皆様とともに企画を考えていきたいと思っています。今回の受賞を励みに, 日本計算機統計学会の発展に貢献できるようより一層研鑽に努めたいと思います。

### フェロー認定者より

日本計算機統計学会フェローに1名の先生が認定されました。認定された方よりコメントを頂きましたのでご紹介いた

します。

### 日本計算機統計学会フェローの称号をいただいて

岡山理科大学 中川 重和

この度は、名誉あるフェローの称号を授与いただきまして、誠に光栄に存じます。推薦いただいた方々、フェロー審査の関係者の皆様、会長の山本義郎先生、副会長の宿久洋先生、渡辺敏彦先生、河合統介先生、そして、これまでにお世話になった会員の皆様方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。大変ありがとうございます。

さて、私が日本計算機統計学会へ入会したのは1989年だと記憶しています。当時、博士課程1年で、第3回大会(大阪大学)での口頭発表にて学会デビューしました。当時の一貫した研究テーマの一つが数式処理を用いた多変量統計量分布論であり、コンピュータの利活用が研究の中心的道具であることは現在でも変わりません。そのような私にとって、日本の計算機統計学者が集う本学会は、研究者として育ててくれた学会であり、また大変居心地の良い環境(懇親会を含む)を提供してくれる学会でもあります。

1993年度には、欧文誌, Volume 5 Number 1, 1-19にて掲載された”Distribution of the sample correlation coefficient for nonnormal populations”に対し、恩師の仁木直人先生との共同研究として、栄えある文献賞を受賞することができました。この受賞は、今後研究者として頑張っていけるという自覚を芽生えさせてくれる出来事でした。また、この結果の一部がJohnson and Kotz の”Continuous Univariate Distributions vol. 2”に半ページに渡り掲載されたのですが、このことも研究人生を歩む上での大きな自信に繋がりました。実を言えば、この結果の一部は査読者からのコメントに従って追加修正したものであり、査読者からのコメントがなければ掲載されることもなかったわけです。その当時を振り返り、改めて査読者の先生に感謝するとともに、有益なコメントを頂ける学会誌を発行している本学会を誇りに感じているところです。

学会運営では、和文誌編集理事、大会担当理事、庶務会計理事として携わる機会を得ました。中でも、2011年度から2016年度まで橋口博樹先生と一緒に取り組んだ和文誌編集理事の仕事が印象に残っています。理事の仕事を引き継いだ時点では和文誌発行の遅延が問題となっていました、任期中になんとか解消できたことに安堵した覚えがあります。和文誌編集委員会の委員の先生方のご協力の賜物です。また、和文誌「計算機統計学」の書誌情報を、JSTが運営する電子ジャーナルプラットフォームであるJ-STAGEへ掲載す

るための一連の作業を実施しました。大会担当理事としては、2007年度第21回大会(倉敷市芸文館)を大会委員長の尾高好政先生の下、運営できたことも楽しい思い出の一つです。

日本計算機統計学会での研究活動や運営で得られた経験は、私の研究者人生においてかけがえのない財産です。このような財産を与えてくださった日本計算機統計学会へ少しでも恩返しができるよう、そして、フェロー称号に恥じぬよう、今後とも精進してまいります。最後となりますが、本学会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念いたします。

### 学生研究発表賞受賞者より

第38回大会で学生研究発表賞を受賞された方よりコメントを頂きましたので、ご紹介いたします。

#### 「学生研究発表賞」を受賞して

大阪大学大学院基礎工学研究科 竹下 和慶

この度、日本計算機統計学会第38回大会において、学生研究発表賞を受賞することができ、大変光栄に思っております。審査をしていただいた先生方をはじめ、大会の運営にご尽力いただいた皆様に、心から感謝申し上げます。また、日頃よりご指導いただいている寺田吉孝先生、そして本研究に関して多くの助言をいただいた研究室の皆様にも、深くお礼申し上げます。

本発表では、「深層学習によるFunction-on-Scalar回帰分析の提案とその理論的性質」というタイトルで発表させていただきました。本研究では、Function-on-Scalar回帰(入力: 多変量データ, 出力: 関数データの回帰)において、深層学習モデルを用いた新しい手法を提案し、その理論的性質を明らかにしました。その結果、提案手法は真の関数の滑らかさが非等方的である場合、次元の呪いを回避できる可能性が示されました。また、シミュレーションデータや実データにおいて、そのような状況下では提案手法がパラメータ数に対して効率的に推定可能であることも確認されました。

今回の受賞は、今後の研究活動に対して非常に大きな励みとなりました。これからも有意義な研究を続けられるよう努めてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 「学生研究発表賞」を受賞して

名古屋大学医学部医学科 岩瀬 直人

この度は日本計算機統計学会第38回大会での発表機会を賜り、また栄えある学生研究発表賞を頂戴し、誠に光栄に

存じます。本大会の運営に尽力された関係者各位、並びに日頃らご指導いただいている林周斗先生、島村徹平先生をはじめ、システム生物学研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。

本発表では「空間トランスクリプトームデータを利用した細胞微小環境と臨床情報を統合するための深層生成モデル」というテーマで研究成果を共有させていただきました。近年、オミクス分野では空間トランスクリプトーム(ST)技術の飛躍的進歩に伴い、組織内の遺伝子発現の空間的分布を、数細胞単位、ないし 1 細胞単位で把握できるようになりました。しかしながら、ST データ取得には高いコストを要するため、より安価な H&E 染色画像から細胞の分子的情報を推定する手法の開発が急務となっています。

本研究では、ST データを用いて細胞の微小環境を定義する手法と、それを H&E 画像から推論する深層学習モデルを提案しました。具体的にはまず、ST データに対して 2 段階の SQ-VAE を適用し、細胞状態クラスタと微小環境クラスタをコードブックの埋め込み表現として同定しました。その後、病理画像向け基盤モデル CTransPath を活用し、H&E 画像から定義した微小環境を予測する深層識別モデルを構築しました。Xenium による 2 つの乳がん標本データを用いた実験では、事前に定義した微小環境クラスタの各々が特徴的な細胞状態の分布を持つこと、深層識別モデルは 1 サンプルのみからの学習でも未知サンプルに対してある程度の汎化性能を持つことを明らかにできました。今後は、サンプル数を増やすための Visium データの活用や、モデルアーキテクチャの改善による予測精度の向上、さらには臨床情報と紐づいた H&E 画像に対し推論することで、微小環境と臨床情報を統合する解析を計画しています。

本研究を通じて得られた知見と課題を踏まえ、さらなる研究の発展に邁進する所存です。引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

### 「学生研究発表賞」を受賞して

同志社大学大学院文化情報学研究科 小林 拓

この度、日本計算機統計学会第 38 回大会におきまして学生研究発表賞を賜り、誠に光栄に存じます。審査にあられた先生方をはじめ、本大会の運営に携わられた関係者の皆様にご心より厚く御礼申し上げます。今回の受賞に繋がった研究は、宿久洋先生および岡部格明先輩の多大なるご助力により発表に至ったものであり、私のために多くの時間を割いてご指導いただきましたことに深く感謝申し上げます。また、

保科架風先生、秋元良友先生には数多くの貴重なご指導を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。さらに、統計科学研究室の皆様ならびに私の両親にも、これまで多くのご助言とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

本発表では「ラベル情報を考慮した Graph-Linked Unified Embedding の提案」と題し、複数のデータセットを共通の低次元空間に統合する際に、各対象に対して与えられるラベル情報を教師情報として用いる手法を提案いたしました。提案手法を遺伝子発現に関する実データに適用した結果、異なる 2 つのデータセットにおいて、同一ラベルをもつ対象が共通の低次元空間上で近接することを確認しました。この低次元空間上の対象の埋め込みは、ラベル情報に基づいたデータの解釈性を向上させる点で有用であることが示唆されます。今後は順序ラベル情報の活用や更なる複数のデータセット統合のシナリオに対応できるよう、研究を進めていく予定です。

今回の受賞は私の研究への大きな励みとなり、今後の研究活動に対して大きな自信にも繋がりました。今後、日本計算機統計学会の発展に少しでも貢献できるよう、今後も一層努力を重ねて参りたいと存じます。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

### 学会からのお知らせ

#### 日本計算機統計学会 2023 年度 第 3 回 理事会 議事録

■議長: 山本 義郎(会長, 東海大学)

■日時: 2024 年 4 月 20 日(土) 15:00~15:30

■場所: 同志社大学東京サテライト・キャンパス会議室 及び Zoom のハイブリッド開催

([https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/tokyo\\_c/tokyo\\_c.html](https://www.doshisha.ac.jp/information/campus/tokyo_c/tokyo_c.html))

■出席者 (敬称略, 会長・副会長以外は五十音順):

山本義郎(会長:議長)

宿久洋, 渡辺敏彦, 河合統介(副会長),

足立浩平(\*), 阿部貴行, 飯塚誠也(\*), 石岡文生,

五十川直樹(\*), 大石雅彦(\*), 大草孝介, 大槻成章(\*),

小木しのぶ, 小田牧子(\*), 川崎玉恵, 栗原考次,

酒折文武(\*), 坂本亘(\*), 桜井裕仁(\*), 下川敏雄(\*),

杉本知之(\*), 竹内光悦, 谷岡健資(\*), 土田潤, 富田誠,

永久保太士(\*), 中村智洋, 中村永友(\*), 橋口博樹,

弘新太郎(\*), 藤澤正樹(\*), 丸尾和司(\*), 水田正弘(\*),

光廣正基, 南弘征, 村上秀俊(\*), 山田隆行, 山本紘司(\*),

山本由和(\*)

((\*):オンラインでの出席)

■委任状提出:

伊藤ゆり, 岡田謙介, 栗林和彦, 小泉和之, 藤野友和,  
米山昭成

●定足数の確認等

理事会定足数 45 名(3分の2以上の出席)に対し, 出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

●報告事項 (2023 年度分)

◆1. 2023 年度事業報告・業務報告について

中村 庶務理事より2023年度事業報告・業務報告について説明が行われた。

◆2. 2023 年度決算報告について

石岡 会計理事より, 2023 年度決算報告について説明が行われた。

◆3. 2023 年度監査報告について

中村 庶務理事より, 2024 年 4 月 5 日に行われた 2023 年度監査について報告が行われた。

◆4. 一般社団法人への移行について

山本 会長より, 2024 年 4 月 1 日より本学会が一般社団法人へ移行し, 今後は法人化のもとでの学会活動となる旨, 説明が行われた。

●審議事項

◆1. 会員の異動等について

中村 庶務理事より 2023 年 10 月 3 日から 2024 年 3 月 31 日までの会員の異動状況について報告があり, 原案の通り承認された。入会直後に退会する会員への対応については, 今後議論を行うものとした。

◆2. その他

特になし。

一般社団法人 日本計算機統計学会 2024 年度 第 1 回 理事会 議事録

令和 6 年 4 月 20 日(土)午後 15 時 35 分より, 同志社大学 東京サテライト・キャンパス会議室(東京都中央区京橋 2 丁目 7 番 19 号 京橋イーストビル 3 階)において, 一般社団法人 日本計算機統計学会 2024 年度第 1 回理事会を開催した。

定刻に司会者・山本義郎会長は開会を宣し, 本日の理事会は出席者が次のとおり定数を満たしたので有効に成立した旨を告げた。

議決に加わることができる理事数 45 名

出席理事数 39 名

欠席理事数(議長へ委任) 6 名

出席理事:山本義郎(会長:議長),

宿久洋, 渡辺敏彦, 河合統介(副会長),

足立浩平(\*), 阿部貴行, 飯塚誠也(\*), 石岡文生,

五十川直樹(\*), 大石雅彦(\*), 大草孝介, 大槻成章(\*),

小木しのぶ, 小田牧子(\*), 川崎玉恵, 栗原考次,

酒折文武(\*), 坂本亘(\*), 桜井裕仁(\*), 下川敏雄(\*),

杉本知之(\*), 竹内光悦, 谷岡健資(\*), 土田潤, 富田誠,

永久保太士(\*), 中村智洋, 中村永友(\*), 橋口博樹,

弘新太郎(\*), 藤澤正樹(\*), 丸尾和司(\*), 水田正弘(\*),

光廣正基, 南弘征, 村上秀俊(\*), 山田隆行, 山本紘司(\*),

山本由和(\*)

欠席理事(議長へ委任):伊藤ゆり, 岡田謙介, 栗林和彦,

小泉和之, 藤野友和, 米山昭成

((\*):オンラインでの出席)

次いで定款の規定により, 会長 山本義郎が議長となり, 直ちに議案の審議に入った。

◆第 1 号議案 会員の異動等について

中村 庶務理事より 2024 年 4 月 1 日から 2024 年 4 月 9 日までの会員の異動状況について報告があり, 原案の通り承認された。入会直後に退会する会員への対応については, 今後議論を行うものとした。

◆第 2 号議案 2024 年度事業計画(案)について

中村 庶務理事より, 2024 年度事業計画(案)について説明があり, 審議の結果, 下記に修正を加えた上で承認され, 評議員会に上程することとなった。

・第 38 回総会を, 第 38 回大会開催中の 2024 年 5 月 24 日(金)にやまぎん県民ホールで開催する。

・評議員会は 2024 年度第 1 回(定時社員総会)を 2024 年 5 月 23 日(木)にやまぎん県民ホールで, 2024 年度第 2 回を 2024 年 10 月 26 日(土)に RSK イノベティブ・メディアセンター(岡山県)で開催する。

・また, 法人化後の評議員会として, 2025 年度第 1 回評議員会(臨時社員総会)を 2024 年 10 月 26 日(土)に RSK イノベティブ・メディアセンター(岡山県)で開催する。

◆第 3 号議案 2024 年度予算(案)について

土田 会計理事より, 2024 年度予算(案)について説明がなされた。審議の結果, 下記に修正を加えた上で承認され, 評議員会に上程することとなった。

・支出の部の特別事業出資金の増減を0とする。

◆第4号議案 第39回(2025年度)大会について

山本 会長より、第39回大会を2025年に宿久 実行委員長、米山 副実行委員長により鹿児島県で開催する旨の提案があり、審議の結果承認された。また、大会またはシンポジウムの実行委員長は例年、企画(大会担当)理事に就任いただいているが、法人化後の理事就任の手続きに登記変更が必要など必要作業が発生することを鑑み、今後は企画(大会担当)理事を設けないことも併せて承認された。

◆第5号議案 フェローの認定について

宿久 副会長(フェロー審査委員会委員長)より、フェロー候補者の紹介がなされ、審議の結果、次の1名にフェローの称号を授与することを認定した。

中川重和 氏(岡山理科大学)

◆第6号議案 論文審査および学生研究発表審査のインセンティブについて

山本 会長より、論文審査および学生研究発表審査のインセンティブについて、これまで amazon ギフトカードを提供していたが、法人化後は源泉徴収が必要となり、謝礼確認作業等の業務量を鑑み、大会またはシンポジウムに現地参加された論文審査者および学生研究発表審査者にお弁当を支給することが審議の結果、承認された。

◆第7号議案 若手セミナーの実行委員会立ち上げについて

山本 若手奨励理事より、若手セミナーを開催する会場を借りるにあたり、その大学に所属する先生が運営に携わっていることが条件となっており、大会やシンポジウムと同様に、若手セミナーでも実行委員会を組織し、若手奨励理事の他に当該先生に実行委員に加わっていただくことが審議の結果、承認された。

その他、各理事より下記の報告が行われた。

◆1. 和文誌について

富田 和文誌編集理事より、和文誌の編集状況について現在の投稿状況や今後募集予定の特集などについて報告が行われた。

◆2. 欧文誌について

橋口 欧文誌編集理事より、JJSD の編集状況について報告が行われた。

◆3. 広報活動について

谷岡 広報理事より、広報活動について報告が行われた。

◆4. 渉外活動について

竹内 渉外理事より、渉外活動について報告が行われた。

◆5. 産官学連携活動について

小木 産官学連携理事より、産官学連携活動の活動状況及び、今後の予定について報告が行われた。

◆6. 第38回大会・第91回評議員会について

永久保 企画(大会担当)理事(同大会実行委員長)より、第38回大会・第91回評議員会の準備状況について報告が行われた。

◆7. 第38回シンポジウムについて

森 企画(シンポジウム担当)理事(同シンポジウム実行委員長)より、第38回シンポジウムの準備状況について報告が行われた。

◆8. 2024年度計算機統計セミナーについて

阿部 企画理事より今年度の理事内の役割分担と、計算機統計セミナーの活動予定について報告が行われた。

◆9. 2024年度若手セミナーについて

山本 若手奨励理事より、2024年9月に神奈川県で開催される若手セミナーについて、準備状況について説明が行われた。

◆10. 2024年度統計関連学会連合大会について

山本 会長より、2024年度連合大会の開催日程等について説明が行われた。併せて、杉本 プログラム委員より本学会からの企画セッションの内容について、報告が行われた。

◆11. 2024年度学会賞について

宿久 副会長(学会賞審査委員会委員長)より、2024年度学会賞を以下の通り授与することとなった旨、報告が行われた。

[日本計算機統計学会賞] 鎌倉稔成 氏(中央大学)

[優秀賞] なし

[論文賞] 酒折文武 氏(中央大学)

[ソフトウェア賞] なし

[奨励賞] 池谷利治 氏(テルモ株式会社)

[貢献賞] 中村永友 氏(札幌学院大学)

伊藤ゆり 氏(大阪医科薬科大学)

日本計算機統計学会 第91回 評議員会 議事録

■議長: 山本 義郎(会長, 東海大学)

■日時: 2024年5月23日(木)15:30~16:10

■場所: やまぎん県民ホール練習室1 および Zoom でのハイブリッド開催

■出席者(敬称略, 会長・副会長以外は五十音順):

山本義郎(会長・議長)

河合統介・渡辺敏彦(副会長)  
足立浩平・阿部貴行・飯塚誠也・石岡文生・石橋雄一・  
五十川直樹・大石雅彦・大草孝介・岡田謙介(\*)・  
鎌倉稔成・久保田貴文(\*)・坂本亘・佐藤耕一・  
塩谷順彦(\*)・篠津和夫(\*)・瀬尾隆(\*)・田澤司(\*)・  
道家暎幸・富田誠・中川重和・橋口博樹・藤澤正樹・  
丸尾和司・山縣清士・米山昭成

■委任状提出(敬称略, 会長・副会長以外は五十音順):  
宿久洋(副会長)・小木しのぶ・栗原考次・杉本知之・  
下川敏雄・竹内光悦・藤野友和

■陪席理事・監事:  
大槻成章(\*)・小田牧子(\*)・谷岡健資(\*)・月田あづさ・  
中村永友・中村智洋・永久保太士・光廣正基・南弘征・  
森裕一・山田隆行・山本由和

●定足数の確認等

評議員会定足数 35 名(半数以上の出席)に対し, 出席者  
と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確  
認された。

●議題:

●審議事項(2023 年度分)

◆1. 2023 年度事業報告・業務報告について

中村 庶務理事より2023 年度事業報告・業務報告について  
説明が行われた。

◆2. 2023 年度決算報告について

石岡 会計理事より, 2023 年度決算報告について説明が  
行われた。

◆3. 2023 年度監査報告について

森 監事より, 2024 年 4 月 5 日に行われた 2023 年度監査  
について報告が行われた。

●報告事項(2023 年度分)

◆1. 2023 年度第 3 回理事会について

山本 会長より2024 年 4 月 20 日に行われた第 3 回理事会  
について報告が行われた。

◆2. 2024 年 3 月 31 日までの会員の異動について

中村 庶務理事より会員の異動状況について報告が行わ  
れた。

◆3. 一般社団法人への移行について

山本 会長より, 2024 年 4 月 1 日より本学会が一般社団法  
人へ移行し, 今後は法人化のもとでの学会活動となる旨, 説  
明が行われた。

●審議事項

◆1. 会費長期末納会員への対応について

中村 庶務理事より報告がなされ, 審議の結果承認され  
た。

◆2. その他

特になし

一般社団法人 日本計算機統計学会 2024 年度 第 1 回 評  
議員会 議事録

令和 6 年 5 月 23 日(木)午後 16 時 10 分より, やまぎん県  
民ホール練習室 1(山形県山形市双葉町 1 丁目 2-38)におい  
て, 一般社団法人 日本計算機統計学会 2024 年度第 1 回評  
議員会(一般社団法人 日本計算機統計学会 社員総会)を  
開催した。

定刻に司会者・山本義郎会長は開会を宣し, 本日の評議  
員会は出席者が次のとおり定数を満たしたので有効に成立  
した旨を告げた。

議決に加わることができる評議員数 35 名

出席評議員数 28 名

欠席評議員数(議長または評議員へ委任) 7 名

出席評議員: 山本義郎(会長・議長),

河合統介・渡辺敏彦(副会長),

足立浩平・阿部貴行・飯塚誠也・石岡文生・石橋雄一・

五十川直樹・大石雅彦・大草孝介・鎌倉稔成・

久保田貴文(\*)・坂本亘・佐藤耕一・塩谷順彦(\*)・

篠津和夫(\*)・杉本知之(\*)・瀬尾隆(\*)・田澤司(\*)・

道家暎幸・富田誠・中川重和・橋口博樹・藤澤正樹・

丸尾和司・山縣清士・米山昭成

欠席評議員(議長または評議員へ委任):

宿久洋(副会長)・岡田謙介・小木しのぶ・栗原考次・

下川敏雄・竹内光悦・藤野友和

陪席理事・監事:

大槻成章(\*)・小田牧子(\*)・谷岡健資(\*)・月田あづさ・

中村永友・中村智洋・永久保太士・光廣正基・南弘征・

森裕一・山田隆行・山本由和

(\*): オンラインでの出席

次いで定款の規定により, 会長 山本義郎が議長となり, 直  
ちに議案の審議に入った。

◆第 1 号議案 2024 年度事業計画(案)について

中村 庶務理事より, 2024 年度事業計画(案)について説明  
があり, 審議の結果, 承認された。

◆第 2 号議案 スタディー・グループについて

中村 庶務理事より, 2024 年度のスタディー・グループは 1

件の継続申請があり、昨年度からの継続の1グループと併せ、計2グループの継続または継続申請がある報告があり、審議の結果、計2グループに各5万円を補助することが承認された。

◆第3号議案 2024年度予算(案)について

石岡 会計理事より、2024年度予算(案)について説明がなされ、審議の結果、承認された。

◆第4号議案 第39回(2025年度)大会について

山本 会長より、第39回大会を2025年に宿久 実行委員長、米山 副実行委員長により鹿児島県で開催する旨の提案がなされ、審議の結果承認された。また、大会またはシンポジウムの実行委員長は例年、企画(大会担当)理事に就任いただいているが、法人化後の理事就任の手続きに登記変更が必要など必要作業が発生することを鑑み、今後は企画(大会担当)理事を設けないことも併せて承認された。

◆第5号議案 第38回総会および2024年度総会について

中村 庶務理事より、第38回総会および2024年度総会の議事内容について報告があり、審議の結果承認された。

◆第6号議案 会長・副会長選挙:候補者の推薦について

大草 庶務理事より、2025-2026年度の会長・副会長選挙にあたり、2024年4月19日締切で公募した結果の報告がなされ、審議の結果、2025-2026年度の会長・副会長選挙の候補者として推薦のあった、会長候補に渡辺敏彦氏、副会長候補に河合統介氏、坂本亘氏、富田誠氏とすることが承認された。

◆第7号議案 法人化に伴うロゴの改訂について

山本 会長より、法人化に伴うロゴの改訂に関するコメントが本学会に寄せられた報告がなされ、ロゴマークの右側の文字の「日本計算機統計学会」から「一般社団法人 日本計算機統計学会」とする提案があり、審議の結果承認された。

尚、当時ロゴマーク作成を担当された庶務理事より、ロゴマークそのものは日本計算機統計学会が所有するものであることが確認された。また、ロゴマークの右側の文字は当時の広報理事で作成したものであるため、ロゴマークの右側の文字を変えることに著作権等の問題が発生しないことも併せて確認された。

◆第8号議案 統計関連学会連合の法人化について

山本 会長より、統計関連学会連合の法人化について説明がなされた。統計関連学会連合の会員である一般社団法人日本計算機統計学会において、統計関連学会連合の法人化についてご理解いただきたいという内容であり、審議の結果、承認された。

その他、各理事より下記の報告が行われた。

◆1. 2024年度第1回理事会について

山本 会長より、2024年4月20日に開催された2024年度第1回理事会について報告がなされた。

◆2. 2024年4月1日以降の会員の異動等について

中村 庶務理事より2024年4月1日から2024年4月9日までの会員の異動状況について報告があった。

◆3. 和文誌について

富田 和文誌編集理事より、和文誌の編集状況について報告がなされた。

◆4. 欧文誌について

橋口 欧文誌編集理事より、JJSJ の編集状況について報告がなされた。

◆5. 広報活動について

谷岡 広報理事より、広報活動について報告がなされた。

◆6. 渉外活動について

小田 渉外理事より、渉外活動について報告がなされた。

◆7. 産官学連携活動について

光廣 産官学連携理事より、産官学連携活動の活動状況及び、今後の予定について報告がなされた。

◆8. 第38回シンポジウムについて

森 シンポジウム実行委員長より、第38回シンポジウムの準備状況について報告がなされた。

◆9. 2024年度計算機統計セミナーについて

山本 企画理事より計算機統計セミナーの活動予定について報告がなされた。

◆10. 2024年度若手セミナーについて

五十川 若手奨励理事より、2024年9月に神奈川県で開催される若手セミナーについて、準備状況について報告がなされた。

◆11. 2023年度学会賞について

山本 会長より、2023年度学会賞を以下の通り授与する旨、報告がなされた。

[日本計算機統計学会賞] 鎌倉稔成 氏(中央大学)

[優秀賞] なし

[論文賞] 酒折文武 氏(中央大学)

[ソフトウェア賞] なし

[奨励賞] 池谷利治 氏(テルモ株式会社)

[貢献賞] 中村永友 氏(札幌学院大学)

伊藤ゆり 氏(大阪医科薬科大学)

◆12. フェローの認定について

山本 会長より、次の1名にフェローの称号を授与する旨、

報告がなされた。

中川重和 氏(岡山理科大学)

◆13. 統計関連学会連合理事会からの報告および 2024 年度統計関連学会連合大会について

山本 会長より、2024 年度連合大会の開催日程および本学会からの企画セッションの内容について、報告がなされた。

### 日本計算機統計学会 第 38 回総会議事録

■日時: 2024 年 5 月 24 日(金) 16:45~17:15

■場所: やまぎん県民ホール スタジオ 1 および Zoom でのハイブリッド開催

#### ●議長選出

山下直人 氏(関西大学)が議長として選出された。

#### ●会長挨拶

山本義郎 会長より挨拶が行われた。

#### ■議事

#### ■審議事項 (2023 年度分)

##### ◆1. 2023 年度事業報告

渡辺 副会長より 2023 年度事業報告について説明がなされた。

##### ◆2. 2023 年度決算報告

石岡 会計理事より 2023 年度決算報告について説明がなされた。

##### ◆3. 2023 年度理事の業務監査および会計監査報告

月田 監事より、2024 年 4 月 5 日に行われた 2023 年度監査について報告がなされた。

上記議事 1-3 について審議の結果承認された。

##### ◆4. 理事会・評議員会報告

山本 会長より、理事会・評議員会について、理事会は 2022 年 4 月 15 日、ネット理事会は 2022 年 10 月 30 日、評議員会は第 87 回を 2022 年 11 月 25 日、第 88 回を 2022 年 11 月 28 日、第 89 回を 2023 年 6 月 1 日にそれぞれ開催した旨、報告がなされた。

#### ●報告事項(2023 年度分)

##### ◆1. 理事会・評議員会報告

山本 会長より理事会・評議員会について、理事会は第 3 回を 2024 年 4 月 20 日、評議員会は第 90 回を 2023 年 11 月 10 日、第 91 回を 2024 年 5 月 23 日にそれぞれ開催した旨、報告がなされた。

##### ◆2. 学会の法人化について

山本 会長より、2024 年 4 月 1 日より本学会が一般社団法人へ移行し、今後は法人化のもとでの学会活動となる旨、説

明がなされた。

#### ◆3. その他

特になし

### 一般社団法人 日本計算機統計学会 令和6年度総会

令和 6 年 5 月 24 日(金)午後 17 時 15 分より、やまぎん県民ホールスタジオ 1(山形県山形市双葉町 1 丁目 2-38)において、一般社団法人 日本計算機統計学会 2024 年度総会を開催した。

定刻に司会者・中村庶務理事は開会を宣し、山下直人 氏(関西大学)が議長として選出され、各理事より下記の報告が行われた。

##### ◆1. 理事会・評議員会報告(2024 年度分)

山本 会長より、理事会は第 1 回を 2024 年 4 月 20 日に、評議員会は 2024 年度第 1 回を 2024 年 5 月 23 日に、それぞれ開催した旨、報告がなされた。

##### ◆2. 2024 年度事業計画

渡辺 副会長より、2024 年度事業計画について説明がなされた。

##### ◆3. 2024 年度予算(案)

土田 会計理事より、2024 年度予算案について説明がなされた。

##### ◆4. 2025 年度(第 39 回)総会の開催地の決定

河合 副会長から、第 39 回総会を 2025 年に開催予定の日本計算機統計学会第 39 回大会中に実施する旨、説明がなされた。なお第 39 回大会は鹿児島県で開催予定。

##### ◆5. その他報告事項

###### ① 和文誌編集委員会報告

富田 和文誌編集理事より、和文誌の編集状況について報告がなされた。

###### ② 欧文誌・JJSD 報告

橋口 欧文誌編集理事より、JJSD の編集状況について報告がなされた。

###### ③ 広報委員会報告

谷岡 広報理事より、広報活動について報告がなされた。

###### ④ 渉外活動報告

小田 渉外理事より、渉外活動について報告がなされた。

###### ⑤ 産官学連携活動報告

小木 産官学連携理事より、産官学連携活動の活動状況及び、今後の予定について報告がなされた。

###### ⑥ 第 38 回シンポジウムについて

森 実行委員長より、第 38 回シンポジウムの準備状況につ

いて報告がなされた。

⑦ 2024年度計算機統計セミナーについて

阿部 企画理事より、計算機統計セミナーの活動予定について報告がなされた。

⑧ 2024年度若手セミナーについて

五十川 若手奨励理事より、2024年9月に神奈川県で開催される若手セミナーについて、準備状況について報告がなされた。

⑨ スタディー・グループについて

中村 庶務理事より、2024年度のスタディー・グループは1件の継続申請があり、昨年度からの継続の1グループと併せ、計2グループの継続または継続申請となる旨、報告があった。

⑩ 学会賞審査委員会報告

宿久副会長(学会賞審査委員会委員長)より、2023年度学会賞を以下の通り授与することとなった旨、報告がなされた。

[日本計算機統計学会賞] 鎌倉稔成 氏(中央大学)

[優秀賞] なし

[論文賞] 酒折文武 氏(中央大学)

[ソフトウェア賞] なし

[奨励賞] 池谷利治 氏(テルモ株式会社)

[貢献賞] 中村永友 氏(札幌学院大学)

伊藤ゆり 氏(大阪医科薬科大学)

⑪ フェロー審査委員会報告

宿久副会長(フェロー審査委員会委員長)より、次の1名にフェローの称号を授与する旨、報告がなされた。

中川重和 氏(岡山理科大学)

新入会員(敬称略, 申請日順)

【正会員】

金子 明広 (株)日本レジストリサービス  
盛崎 俊浩 佐賀大学医学部附属病院臨床研究センター  
藤丸 あおい (株)NTT データ モビリティ&レジリエンス事業部  
花田 圭佑 大阪大学大学院基礎工学研究科

【学生会員】

【賛助会員】

現会員数(令和6年4月9日現在)

正会員数(国内・海外)	531
学生会員	44
賛助会員	20
団体会員	1
合計	596

学会・研究会のお知らせ

【開催予定一覧】

【国内】

・日本計算機統計学会 第38回シンポジウム

会場: 能楽堂ホール tenjin9/岡山市立オリエント美術館(岡山県岡山市)

日程: 2024年10月24日(木)~26日(土)

<https://jscs.jp/conf/sympo38/>

【国外】

・IASC-ARS Interim Conference 2024

会場: National Taiwan University, Taipei City, Taiwan

日程: 2024年12月13日(金)~14日(土)

[https://webpageprodvm.ntu.edu.tw/IASC-ARS\\_Interim\\_2024/Default.aspx](https://webpageprodvm.ntu.edu.tw/IASC-ARS_Interim_2024/Default.aspx)

・The 18th International Joint Conference of Computational and Financial Economics and Computational and Methodological Statistics (CFE-CMStatistics 2024)

会場: King's College London, UK

日程: 2024年12月14日(土)~16日(月)

<https://www.cmstatistics.org/CFECMStatistics2024/>

#### ◆2024 年度計算機統計セミナー開催のお知らせ

以下のように第3回計算機統計セミナーを計画中です。詳細が決まりましたらメールニュースやHP等でご案内いたします。

「Pythonによるシミュレーション実践: S4 Simulation System で学ぶ離散イベントシミュレーションとシミュレーション記述言語によるプログラミング実践」

内容:シミュレーションは、製造工程、サプライチェーン、交通、通信、防災、ヘルスケアなど解析的に分析するには複雑なシステムを分析する手法として古くから用いられてきた。本セミナーは、銀行などの受付窓口や製造工程モデルを例に離散イベントシミュレーションを学んでいただくとともに、シミュレーション分析を体験していただける内容になっている。

前半は、シミュレーションの基本と活用されている分野、具体例の紹介と、(株)NTTデータ数理システムが開発したシミュレータ S4 SimulationSystem (S4) を操作しながら離散イベントシミュレーションのイメージをつかんでいただく。

後半では、Pythonの離散イベントシミュレーション用パッケージSimPyを紹介した後、S4が提供するPython上で動作するプロセス思考のシミュレーション記述言語(psim言語)を使って、Pythonプログラミングによるシミュレーション分析を体験していただく。

その他、S4のデモンストレーションを通して、人流や交通などエージェントベースのシミュレーションについても紹介する。

日時: 12月13日(金) 16:00-18:00

講師: (株)NTTデータ数理システム 嶋田 佳明, (株)NTTデータ数理システム 西畑 みなみ

場所: (株)NTTデータ数理システム 会議室 (対面参加は10名まで, オンラインは20名程度まで)

#### 和文誌編集委員会からのお知らせ

◆特集「小標本医学データの解析における諸問題への対処」の論文募集について

和文誌編集委員会では、和文誌『計算機統計学』における特集として「小標本医学データの解析における諸問題への対処」に関する論文投稿を受け付けます。

統計解析においては、漸近理論に基づき大標本での性能

が担保された統計手法が用いられることが多いです。しかしながら医学研究において、小標本データをとり扱うことも少なくなく、これらの漸近理論に基づく統計手法の性能が担保されないおそれがあります。スタディー・グループ「小標本医学データの解析における諸問題への対処」(2023~2025年度)では、このような小標本医学データの解析における統計的な課題の解決を目標としており、この度、本特集を企画するに至りました。

本特集では、

- ・経時欠測データ解析における小標本バイアス補正
  - ・小標本問題に関するRパッケージのレビュー
  - ・臨床試験における部分集団特定に関する統計手法
  - ・臨床試験におけるBayes流解析手法による既存情報の活用
  - ・国際共同治験での日本人部分集団における推測
- など、医学統計および計算機統計学の発展に寄与する投稿を募集します。多くの投稿が寄せられますことを期待します。

なお、本特集の投稿論文の採否は、通常の査読プロセスにより決定されます。

投稿期限: 2025年3月31日

募集する投稿区分: すべて(原著論文, 総合報告, ソフトウェア記事)

投稿区分に関する詳細は、投稿規定を参照ください。

発行: 2026年8月(予定)

原稿送付先: 論文投稿・査読システム

<https://www.editorialmanager.com/bcsj/>

オーガナイザー: 丸尾和司(筑波大学)

本特集に関する問い合わせ先: [wabun-ssclinical@jscs.jp](mailto:wabun-ssclinical@jscs.jp)

#### 広報委員会からのお知らせ

◆ニューズレターでの広告掲載について

本ニューズレターでは広告の掲載を募集しております。2024年10月発行の第80号よりカラーでの広告掲載も可能となりました。広告掲載をご希望の会員は、渉外理事([shougai@jscs.jp](mailto:shougai@jscs.jp))までお問い合わせください。また、ニューズレター以外の媒体のうち、学会ウェブページ(<https://jscs.jp/>)のバナー広告、和文誌、計算機統計セミナー関連の広告掲載に関するお申し込み・お問い合わせも、上記のE-mailアドレスにて随時受け付けています。

なお、大会およびシンポジウム関連の広告掲載については、それぞれの実行委員会にご連絡をお願いいたします。

## 事務局からのお知らせ

### ◆会費納入のお願い

会員の皆様には 2024 年度会費振込用紙を送付させていただいております。会費の未納は学会運営に大きな影響を及ぼしますので、お忘れのないように納入をお願いいたします。会費のお支払いは、下記の口座への振り込みのほか、クレジットカードでのお支払いも可能です。詳細につきましては、会費振込用紙と一緒に送付した「会費納入のお願い」をご確認ください。また、複数年にわたって会費を未納の場合、評議員会の審議を経て除名されることがありますので、ご注意ください。

なお、2024 年度からは法人化に伴い、法人口座の銀行も新たに加われました。以下の口座のいずれかに納入してください。

《ゆうちょ銀行》

口座名義：日本計算機統計学会

口座番号：00180-0-537374

《三菱 UFJ 銀行 青山支店》

口座名義：日本計算機統計学会

普通口座：5284324

《三菱 UFJ 銀行 神保町支店》

口座名義：一般社団法人 日本計算機統計学会

普通口座：1721841

### ◆高齢者会員の会費割引について

本会では、主として退職された会員を対象に会費割引の制度を設けています。

(1) 60 歳の誕生日を過ぎていること

(2) 会誌(和文誌)の配布を希望しないこと

の両方を満たす場合、お申出により会費が割引(7,000 円→2,000 円)となります。会費割引には評議員会での承認が必要となりますので、ご希望の会員はお早めに事務局にお申出ください。

### ◆2025 年度の新入会員の特典について

2025 年度に学生会員または賛助会員として新規に入会された新入会員は、入会特典を受けることができます。統計科学に関する研究を行っている学生の方がお近くにいらっしゃいましたら、ぜひこの機会に入会をお誘いください。

また、学会では賛助会員のために様々な形で計算機統計学に関する情報の提供・交換の場を設けています。会員の

皆様には、統計科学とその周辺領域、コンピュータなどに関係のある企業・団体をお誘い、あるいはご紹介くださいますようお願いいたします。

入会特典の詳細につきましては、学会ウェブページの <https://jcs.jp/入会のお誘い/新入会員特典/> をご覧ください。

### ◆会員情報の変更について

所属変更等をされた会員の方は、お手数とは存じますが、学会への変更の届出を忘れずをお願いします。届出を忘れると郵便などによる学会からの連絡が届かなくなってしまうます。学生会員の方で今年就職をされた方は、今年度から正会員となりますので、必ず新しい所属・連絡先をお知らせください。

会員情報に変更のある会員の方は、学会事務局 (office@jcs.jp) 宛に電子メールで変更点をお知らせください。

ご理解、ご協力をいただけますよう、お願い致します。

### ◆休会制度、種別変更猶予制度について

本会では、休会制度および種別変更猶予制度を設けています。

「休会制度」は、会員に特段の事情が認められる場合、理事会の承認を経た上で、会員資格の停止とともに、会費を徴収しないことができることとした制度です。

「種別変更猶予制度」は、学生会員が学生としての身分を失い正会員に移行する際に、経済的事由などにより正会員として学会に所属することが著しく困難であると理事会で認められた場合、引き続き「学生会員」として所属できることとした制度です。

本制度は、年度単位で適用されます。希望される会員は、事務局までご照会ください。なお、本制度に関わる申し合わせは、

<https://jcs.jp/face/rules/kyukai.html>

からご覧いただけます。

## 広報委員会

(五十音順, \*印は理事, +印は今号編集担当)

安藤 宗司+(東京理科大学)  
石岡 文生(岡山大学)  
大草 孝介(中央大学)  
川崎 玉恵\*(青山学院大学)  
小泉 和之\*(順天堂大学)  
下川 朝有+(東京理科大学)  
谷岡 健資\*(同志社大学)  
玉谷 充+(成城大学)  
藤野 友和\*(福岡女子大学)  
南 弘征(北海道大学)  
村上 秀俊(東京理科大学)  
山本 由和(徳島文理大学)

## 日本計算機統計学会への入会のお誘い

一般社団法人 日本計算機統計学会事務局

一般社団法人 日本計算機統計学会では、随時新入会員を募集しております。会員の皆様の近隣で計算機統計学に興味のある方がいらっしゃいましたら是非入会をお勧めください。個人会員、賛助会員ともに入会いただくと、さまざまな特典があります。

### 2024年度の入会特典について

#### 【対象期間】

2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日）

#### 【対象者】

対象期間内に新規に学生会員または賛助会員として入会申込を行い、入会金・初年度年会費を納入した新入会員

（入会金・初年度年会費の納入が確認された時点で特典の権利が発生します）

※賛助会員には入会金はありません。

#### <学生会員になられる方への特典>

本会の大会またはシンポジウムに、1回に限り無料で参加することができます！

#### <賛助会員になられる企業・団体への特典>

学会発行の論文誌、講演報告集、ニューズレターなどに企業広告を廉価で載せることができます！

入会特典についての詳しい内容は学会ウェブページをご覧ください。

<https://jscs.jp/入会のお誘い/新入会員特典>

#### <お問合せ・連絡先>

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-6 能楽書林ビル 5F

(公財)統計情報研究開発センター内 日本計算機統計学会事務局

TEL : 03-3234-7580 (平日 9:30~17:00)

FAX : 03-3234-7580

E-mail : office@jscs.jp

URL : <https://jscs.jp/>

---